

一生勉強、一生青春

—自分の未来は自分で切り開こう—

栃木県立さくら清修高等学校

平成28年度PTA共催・キャリア形成支援講演会(1～3年生)資料

期日：2016年5月17日(火)

第6・7時限(14:40～15:50)

場所：講堂

対象：全校生徒及び保護者(希望者)

講師：開倫塾 塾長 林 明夫

御理解しやすいように講演会の資料を QandA の形でまとめました。大切と思われることに下線などを引きながらお聞きください。

Q 1 : 好きなことばは何ですか。自己紹介を兼ねて紹介してください

A : (1) 「練習で泣いて試合で笑え」

* 足利市立山辺中学校柔道部監督 椎名弘先生

(2) 「ブルドッグ魂」…食いついたら離すな

* 足利市立山辺中学校中 3 クラス担任 岡田忠治先生

(3) 「一所懸命」…一つの所で命を懸けるくらい熱心なものごとに取り組もう

* 栃木県立足利高等学校マラソン大会の合い言葉

(4) 「会った人は、皆友達」

「よいことをして忘れる」

「本当の月を見たことがあるのか、本当の自分を見たことがあるのか」

* 京都一燈園 石川洋先生

(5) 「^{りけん}離^{けん}見の見」…舞台の上で踊っている自分を、観客席に座っている自分が見ている

「初心忘るべからず」

* ^{ぜあみ}世阿弥のことば

(6) 「持続する志」

* ノーベル賞作家 大江健三郎先生

(7) 「目には遠いが心は近い」

* インドのことわざ

(8) 「教育ある人とは学び続ける人」

* 経営学者 ドラッカー先生

(9) 「一生勉強、一生青春」

* 足利市在住の書家 相田みつを先生

皆様の好きなことばを 3 つ書いてください。

(1)

(2)

(3)

*もしよかったら、一番好きなことばを教えてください。



Q2：林さんは、今、どのような仕事や活動をしていますか

- A：(1)開倫塾 塾長 株式会社開倫塾 代表取締役社長
(2)学校法人 有朋学園 有朋高等学院 理事長(福島市)
(3)宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授、作新学院大学 客員教授
(4)社会福祉法人 両崖福祉会 特別養護老人ホーム 清明苑 監事(足利市)
(5)マニー株式会社(手術用縫合針製造) 顧問、社外取締役(2004～2010年)
(本社：宇都宮市。現地法人：ハノイ、ヤンゴン、ビエンチャン)
(6)公益社団法人 栃木県経済同友会 幹事
(7)公益社団法人 経済同友会 幹事(東京)、サービス産業活性化委員会 副委員長
*諮問委員会、子どもの貧困・機会格差問題部会、委員
(8)社団法人 栃木県生産性本部 理事。栃木県サービス産業活性化・生産性向上委員会 委員長
(9)開倫ユネスコ協会 会長。日本ユネスコ協会連盟、評議員。開倫研究所、所長
(10)CRT ラジオとちぎ放送「開倫塾の時間—林明夫の歩きながら考える—」 毎週土曜日 9:15～9:25 放送を担当。今年の3月で30年目に入りました。
(社会人を含め「効果の上がる勉強の仕方」をお伝えする番組です)
*以上の他に、アメリカの短期大学の役員、中国の印刷会社の役員、栃木県知事の諮問機関である栃木県 IT・経済戦略会議、栃木県経済活性化戦略会議の委員や栃木県社会教育委員、足利市長の諮問機関である足利市経済活性化諮問会議の会長などを経験しました。

皆様は将来どのような仕事に就きたいですか。どのような社会的活動がしたいですか。どのような生き方がしたいですか。一行ずつ書いてみてください。

(1)将来就きたい仕事

(2)将来したい社会的活動

(3)どのような生き方がしたいか

Q3：林さんが今の仕事に就いた経緯・理由は何ですか。今のような活動をしている理由は何ですか。詳しく説明してください

A：開倫塾を始めた理由

- (1)中学・高校生のときの将来の希望は弁護士。
(2)弁護士になるためには、司法試験に合格することが必要。
(3)その当時の司法試験の受験資格は、大学2年生を修了していること。
(4)そこで、高校を選び、足利高校に進学。司法試験に合格するために、法学部のある大学に合格するために大学入試の勉強。慶應義塾大学法学部法律学科に入学。



- (5) 東京では、栃木県育英会の栃木県学生寮から慶應義塾大学の日吉キャンパス(横浜市)に 2 年間通学。
- (6) 大学卒業後 29 歳まで司法研究室研究生として法律の勉強をした。
- (7) 大学 1 年時からアルバイトとして学習塾・予備校の講師、家庭教師をずっとしてきた。
- (8) 29 歳のときに司法試験を断念し、学習塾を開業して今日に至る。
- (9) 子どもを教えることは子どもの成長に役立つ、また、基礎教育の充実は社会のためにもなると思ったから。



Q 4 : 開倫塾を起業したときに苦労したことは何ですか

- A : (1) 塾生や社員が増え、教室を整備するのに資金がなかったこと。塾生は増えても、よい先生を雇うことができなかったこと。
- (2) そこで、足利商工会議所や足利銀行に相談に行き、個人営業ではなく、株式会社にしたほうが融資を受けやすく、よい人材を採用しやすいと教わり、株式会社 開倫塾を設立。
- (3) いろいろなところに経営の勉強をしに出掛け、「会社らしいしくみづくり」を目指しました。

Q 5 : それではお聞きします。経営者としてどのようなところに出掛けて、何を勉強したのですか

- A : (1) 初めの 5 年間は授業の予習をし、教材をつくり、365 日 1 日も休むことなく、小学 6 年生から高校 3 年生までの塾生を教え、保護者を励まし続けました。
- (2) 経営の勉強を始めたのは、起業して 5 年目に株式会社 開倫塾を設立してからです。経営者としての勉強の基本は、「我以外皆我師也(われいがいみなわがしなり)」、自分以外の人すべてが自分の先生であるという吉川英治作の「宮本武蔵」の中に出てくる考え方です。
- (3) この考えのもとに、同業者である全国の学習塾の経営者の勉強会に参加させて頂きました。原則、週に 2 日の休みの日は、他の塾に行って勉強し続けました。
- ①勉強会、セミナーなどでの勉強(週 1 回)
 - ②現地視察、経営者の団体での経営の勉強会に参加(週 1 回)
- (4) 同時に、地元の①商工会議所、②取引銀行、③栃木県経済同友会などで行われている経営者としての経営の勉強会に参加させて頂きました。
- *初めは足利市だけでしたが、徐々に栃木県(特に宇都宮市)内、ここ 15 年余りは東京や他の都道府県にも勉強の場を広げています。時々海外にも出掛け、経営者としての勉強をしています。
- (5) 1998 年から栃木県経営品質賞にチャレンジして、2000 年に優秀賞、2003 年に知事賞を受賞しました。また、2009 年にハイサービス日本 300 選を受賞しました。
- 学習塾は 4 社が受賞、海外展開で「公文」、個別指導で「明光義塾」、私立中学受験で「日能研」、一般進学塾で「開倫塾」と 4 社のうち 1 社に選ばれました。
- (6) 現在は、栃木県を中心に群馬県、茨城県と北関東に 60 校舎までできましたので、栃木県内をより充実させると同時に、茨城県、埼玉県東部、東京の下町地区と、海外への展開を目指しています。

(7)そのためには、「本社機能の強化」、「R and D(研究開発)」、「標準化」、「グローバル人材の採用と育成」などが欠かせません。

(8)学習塾以外にも「教育サービス」として何ができるかを考えています。

*社内英語研修やパソコン研修、外国人スタッフへの日本語教育など「社内教育代行サービス」

Q6：組織に属するだけでなく、自ら起業したいと思い、これから起業するかもしれない若者に向けてのアドバイスをお願いします

A：(1)「企業は原則、倒産」です。「昨年のように今年があって、今年のように来年があればよい」と思って仕事をしていると、再来年はないのが厳しい現実です。はっきり言って、「昨日のように今日があり、今日のように明日があると思っていると、明後日はない」のが企業の現実です。

(2)なぜか。企業をとりまく世の中の状況はどんどん移り変わっていくからです。これを企業をとりまく「環境変化」といいます。

(3)この世の中の変化、環境変化の中には何があるか考えてみましょう。企業は、環境変化に合わせて製品やサービスの内容、提供の仕方、仕事の仕方をどんどん変化させ続けなければなりません。「企業とは、環境適応業だ」という考えもあるほどです。



①超少子化、超高齢化(日本は人口減少)

②グローバル化(世界は人口爆発)

③IoT化(Internet of Things ものにコンピュータ情報が載る)

④競合他社(地元や日本国内、海外の競争相手)との競争に勝てるだけの「国際競争力」を

*起業するときには大切なのは、これから仕事を始めるのですから世の中の動きを知ることです。企業家として知る努力をし続け、知った上で仕事を進めることです。

(4)企業が生み出すものは何か。

*私は、お客様(顧客)にとっての価値だと考えます。「顧客価値の創造こそが企業活動」です。

(5)企業が提供する製品やサービスの「お客様にとっての価値」(顧客価値)とは何か。

*「お客様にとっての問題、困っていることの解決」つまり「顧客の問題解決」のお役に立つことだと考えます。

(6)ですから、起業するとき、また、仕事をするときに大切なのは、

①自分にとっての、この仕事にとってのお客様(顧客)は誰なのかをはっきりさせること。つまり、「顧客の定義」です。

②さらに大切なのは、自分の仕事とは何か、この企業の仕事とは何か、何を提供するのが自分の仕事なのか、この企業の仕事なのかをはっきりさせることです。これを仕事の範囲、「事業領域」(企業ドメイン)といいます。

<例1>マニー株式会社の仕事とは…「世界最高の製品を世界のすみずみに」

*「世界一いなか否か会議」を開催し、世界最高の製品を目指す

<例2>開倫塾の仕事とは…「学校教育で不足する教育サービスの提供」

*「全国模擬授業大会」を開催し、教え方日本一を目指す

- ③「自己責任」(自分で行ったことはすべて自分の責任)
「自助努力」(自分の身は自分で助ける。誰にも頼らず、すべて自分で行う)
「あきらめたらおしまい」
「自分の未来は自分で切り開く」
「高い志こころざしを持ち続ける」(持続する志)
「励まし合う仲間づくり」
- ④1週間に1度は会社の外に出て世の中のことを知る。1か月に2冊は本を読む。仕事に係る本を1冊、仕事以外の本を1冊読む。
お勧めは、「四書」(論語、孟子、大学、中庸の4冊の中国の古典)。これを時間をかけて何回も繰り返し読む。声を出して読む(音読)。
- ⑤中学校・高校時代の勉強はすべて仕事に役立つ。大学や短大、専門学校の勉強、会社に入ってからからの勉強もすべて仕事に役立つ。だから、教科書や教材、ノートは絶対に処分しないこと。必ず保存し、折に触れて繰り返し読み直すこと。一生かけて読み直すこと。中学校・高校・大学などの勉強の上に、新しいことをつけ加えること。ゼロから勉強し直すのもよいが、今までの勉強を踏まえて新しい勉強をすることも大事。
- ⑥生活を質素にして、お金(資本金)をためること。会社の発展のためにお金を用いること。起業する人ほど一生かけて勉強し続けること。何を、どこで、誰と、どのように勉強するかはすべて自分で決めること。経営者の勉強の量と質が企業の命運を決める。

Q7：仕事をする上で、組織は大事なのですか

A：(1)一人で仕事はできない。必ず社内や社外の「ビジネスパートナー」の協力を得なければ仕事は成り立たない。

(2)仕事で大事なものは「チーム・プレー」

「チーム・プレー」とは、

- ①「他のメンバーを信頼すること」
- ②「自分のポジションは自分で守り切り、他人を頼らないこと」

(3)「経営情報の共有」

- ・情報を一人占めしないで皆で共有
- ・危機意識の共有

*「問題の先送り」「臭い物にはふた」は、企業を倒産に追い込む。

*「耳に痛いことを言う人は尊い」「問題点を指摘」し、みんなで知恵を出し合い、解決すること。決定を先延ばしにしない。経営責任者が責任を持って決定。反対意見に対しては、なぜその決定に至ったのかをわかりやすく、ていねいに説明することで、経営者としての「説明責任を果たす」こと。

(4)リーダーの役割は現状否定

- ①たえずよいものを目指すこと。昨日よりは今日、今日よりは明日と「小さな改善」の積み重ねでよりよい仕事、企業を目指すこと。

- ②今まで当たり前になっていたことをガラッと変えること、刷新(イノベーション)、新しい



世界の創造。

*イノベーションの担い手が「企業家」。「企業家」を育てることもリーダーの役割。

- ③「サーバント・リーダーシップ」(皆に仕える、奉仕するのがリーダー)
- ④「学習する組織」づくりを、みんな(社員、ビジネスパートナー、地域社会、同業他社)で学び合う。

Q 8 : 高校時代に身に付けておいたほうがよいことは何ですか

A : (1)高校での教育(教科教育と教科外の教育活動)は上級学校ですべて役立ちます。仕事をするときも、また、生活するときも役立ちます。よく生きるのに役立つのが、学校での教育です。全教科の学習と学校での教育活動にしっかりと励んでください。

(2)高校時代に身に付けておいたほうがよいのは「学び方」(学習の仕方)

①「理解」の仕方

- (ア)予習の仕方 …辞書、用語集、参考書の使い方、図書館の活用の仕方
- (イ)授業の受け方…授業中のノートの取り方
- (ウ)復習の仕方 …授業後のノートの整理の仕方

②「定着」の仕方(理解したことを身に着けるにはどうしたらよいか)

- (ア)音読練習(すべて覚える)
- (イ)書き取り練習(正確に書けるまでにする)
- (ウ)計算・問題練習(わからない計算や問題をなくす)

③「応用」の仕方(テストの受け方)

- (ア)過去問の勉強の仕方
- (イ)間違いノートの作り方、活用の仕方
- (ウ)まとめノートの作り方、活用の仕方

*テストは高校卒業後も何回も受けるので、テストの受け方を身に付けておくこと。



(3)メモの取り方—仕事はメモで身に着ける。

- ①「手帳」の使い方—
 - (ア)当日・翌日に行うべきこと
 - (イ)その週・来週に行うべきこと
 - (ウ)当月・来月に行うべきこと
 - (エ)当四半期・次四半期に行うべきこと
 - (オ)当年度・次年度に行うべきこと

*各々をたえず見直し、頭に入れること
- ②「メモ」の使い方—
 - (ア)打ち合わせた内容はすべて詳細にメモに取る
 - (イ)取ったメモは読みやすいように整理。

*繰り返し読み直し、頭に入れる



③「書き抜き読書ノート」「スクラップ・ブック」を

- (ア)本や新聞を読んで大切なことはノートにメモをし続ける。
- (イ)気になる新聞記事を切り取りノートに貼り付ける(スクラップブック)。
- (ウ)繰り返し読み直して頭に入れる。手帳やメモ、ノートの活用で大事なことは、「記録した内容」を繰り返し読み直し、

(エ)ひとつひとつのものごとの「意味」・「価値」を自分なりに考えること。その上でことばに表し、まとめ上げた後に、頭に入れること。

(オ)何が問題か、それに対してどのように考えるべきかをよく調べ上げた上で、ノートにまとめ続け、書き続け、どんどん実行に移すこと。実行に移したときの経緯も書き続ける。

(4)「読書」により「思慮深さ」を身に着けること。

①特に、「古典」を読み、「著者(作者)」との「時空(時間と場所)を超えた対話」をすること。

②文庫、新書に親しむこと。

(5)「新聞」を読み「自分で考える力」「批判的思考能力」を身に着ける。新聞は社会の番犬(Watch Dog)。社会(世界や日本、地域社会、一人ひとりの市民)が取り組むべき課題はこれだよとワン・ワンと吠えて知らせる役割を持つのが新聞。一紙だけだと偏りが出るので、時々でもOKなので図書館などで数紙(できれば外国の新聞も含め)を読み続けること。

*高校時代は図書館の活用の仕方を身に着けることが大事。

(6)「5S(ごえす)」

①「整理」(seiri) 一要らないものを処分する

②「清掃」(seisou) 一きれいに掃除そうじをする

③「整頓」(seiton) 一ものはいつも決まった所に置く

④「清潔」(seiketu) 一①～③を保つ

⑤「躰」(shituke) 一自分から進んで行く

*まずは、「カバン」や「机」「ロッカー」「ダンス」などを用いて「5S」をやってみよう



「別の意味の躰(しつけ)」①「美しい立居振舞い」②「敬語表現を含むことばづか言葉遣い」も身に着ける

Q9 : 学力とは何ですか。学力を身に着けるとどうなるのですか

A : (1)「学力」とは「主体的に学ぶ力」(自分から進んで学ぶ力)

(2)「学力」を身に着けると

①「多様な選択肢のある人生を歩む」ことができる。

②「正常に機能する社会の形成」「持続可能な社会の形成」に役立つ。

感謝

御清聴ありがとうございました。質問があったら、どんどんしてくださいね。

